

東光寺だより

秋も深まりました



(今年の画像)

秋が過ぎると禅寺は年末に向けて忙しくなります。

二祖忌（開山忌とだるま忌）は12月4日にお勤めいたします。開山様は東光寺を開かれた天縦派の寂光天照禅師。達磨大師は言うまでもなく禅宗を開かれたお釈迦様から第二十八代目の和尚様です。このお二人があつて現在東光寺が禅寺として存続しているのです。

三佛会（さんぶつえ）は仏教にとって一番大切な行事です。お釈迦様ご自身に関わる行事なのです。

お誕生日 四月八日 降誕会といひます。

お悟りを開かれた日 十二月八日 成道会といひます。

ご命日 二月十五日 涅槃会といひます。

降誕会 とは灌仏会またはひらたく「花まつり」として昔から親しまれ、白象をみんなで引いて お釈迦様に甘茶をかけてお祝いをしました。



太鼓を叩きお経を読む最近の住職

成道会 お釈迦様が12月8日の明けの明星をみてお悟りをひらかれたということから禅宗の僧堂ではこの日まで一週間不眠不休。必死の覚悟で修行をするのです。

涅槃会 各寺院では釈迦入滅涅槃図をかけ、お経を読み

ます。昔は涅槃団子といって五色のお団子を作ってお供えしました。

暮れからお正月に向けて

年末大掃除

ちょっと昔は台所の燃料はすべて薪と炭と落ち葉と木の枝で家中煙が充満しており、その結果煤だらけでした。そんな状態では年を越せない。そこで一年のほこりを払う掃除が絶対必要でした。

たかが掃除 されど掃除

禅宗のお掃除の由来（参考 本山出版 臨済宗の仏事）
お釈迦様の弟子に周利槃特という僧がいました。彼は自分の名前すら覚えられない弟子でした。お釈迦様はその彼に一本の帚をわたし、とにかく掃除をするようにいわれました。周利槃特は「我 塵を払わん、我 垢を除かん」と唱えながら、ひたすら掃除を続けるうちに、塵や垢とは自分の執着心のことだったと気づき悟りを開いたといわれます。禅宗の修行の中で「作務」その中でも「掃除」が大事な眼目になるのはここに由来しています。仏教徒としては外面の掃除と共に心の中にたまった塵・垢を落とすのが目的だと心得て下さい。



東光寺のお掃除小僧さん



今年ももみ殻燻炭を大量に作っています。どうぞご利用下さい。

令和4年11月1日

東光寺 住職 鷺見邦隆